

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 10月号 (NO42)

2013年10月10日 (木) 発行 (毎月10日)

【農暦】10月とは言えない気温で大汗を掻いた！

○昨夜(9日)は水分を取り過ぎた事もあるが汗でパジャマの襟やマクラが濡れた。クーラーを掛けようか迷った。新潟の糸魚川では35.1℃で、今の時期で観測史上最高の温度を記録したと云う。大阪、名古屋では31℃、東京は28℃であったとテレビニュースで知った。長袖に着かえた途端に夏に戻った。気持ちも身体も違和感を持ったままである。観測史上何何のニュースが毎月続くので、異常気象が時候の挨拶の様になってしまう。暦を見ると、7日“長崎くんち(*1)」、8日は寒露とある。寒露とは露が冷たく感じられるころの事ある。30℃の気温は高過ぎる。

○7日は旧暦の9月9日に当たり、9が重なる重陽の節句であり、菊の節句でもある。長寿を祈る日で菊の開花の時期であると云う。“重陽の日、摘んだ菊の花びらを、乾かして詰め物にし、菊枕にします。菊の香り漂う寝心地に、恋する人が夢に現れるともいわれ、女性から男性に贈られたそうである。漢方では解熱に用いる菊は、邪気を祓い、長寿を得るとされる。”と云われている。

○”私の畑の食用菊の「モッテノホカ(*2)」は既に開花して僅かであるが30日に出荷した。重陽の日より7日早かった。笠間では菊祭りが19日から始まるが、「小菊」の栽培地でもある。菊は奈良時代に中国から薬草として伝わったそうであるが、菊の節句の話は聞いたことがない。

○畝間を大きく採った黒豆や小豆の草が気懸りであったが中々出来ないでいた。案の定、草は相当伸びていた。意を決し草払い機で作業を行う。1日目は作業成果が見え、何時も言っている爽快感でストレスから解放された思いがした。2回目3回目と作業続けていると終わりが見えない苛立ちの気持ちと、こんなにしてしまった反省の気持ちなどで、爽快感は後退してしまったが、黒豆、小豆、金時など周りの除草までは終えた。

○心配された黒豆の房が膨らみ始めていた。収量が減るかもしれないが問題なさそうである。来週には枝豆が楽しめそうである。それにしても10月とは言えない気温で、久しぶりに大汗を掻いた。この暑さも、もう少しで治まると云う。草の繁茂力に負けたところを来年に向けて整備して行きたい。夏太りの身体は直ぐ悲鳴を上げたが、疲れたが身体は喜んでいるようだ。たいした作業をしたわけではないし、大袈裟に言いたる事ではないの



＜そば畑＞そば花の盛り、美しい景観があちらこちらに、常陸秋そばは茨城の名産である。22日撮影

だが少しだけいい気分になっている。

○白菜の苗作りは失敗したが、大根は今のところ順調である。虫を心配しながら間引きをして味噌汁の実にして頂いた。農的生活の楽しみのチョットした出来事の朝食に満足した。そして小さな栽培循環に舵を切り替え進めて行きたいと思っている

*1、“長崎くんち”は、長崎の諏訪神社で催される御九日の祭りの事である。

*2、地元で「モッテノホカ」と呼ばれている、うす紫の色の食用菊。

【楽農】草刈り、黒豆、小豆の実りを待つ！

<ハウス> ; 収穫ほぼ終わり片付け整備待ちに。

<畑A> ; 大根、僅かの白菜が生育中。

<畑B> ; 黒豆、黒小豆、小豆、金時など除草、

*マイクロトマト、シシトウ、食用菊など僅かながら出荷



<運動会>孫娘の小学校最後の運動会。28日撮影

【楽市】イベント交流・直売など

○エコピア柏の生ゴミ堆肥化の講座（28日）

恒例の秋の講座を柏りボン館で行う。男性の参加者の比率が増えて来ている。菜園をやっている人も多く、EMボカシのバケツの購入希望者が多かった。

○吟詠剣詩舞道大会に参加（29日）

・筑西福祉センターで行われた県西地区の大会に参加した。所属の会から2位に入賞する。

○その他；

・来客（農園見学と交流；11-12日、22日）、山岳OB笠間の集い（14-16日）、同窓会で那須塩原（3、4日）、共生の会（10日）などと昔の仲間や新たな交流の会が多かった。



<吟詠剣詩舞県西地区大会>熱演が続く。29日撮影

【つぶやき=Tweet】“はだかのゲン”の閲覧制限の話題があったが！

○19日は中秋の名月で出窓に薄^{すすき}と梨、りんご、栗それに団子をお供えした。お供えするのは五穀豊饒に感謝する事で始まったと云う。山のOB仲間とお月見会の予定が1週間倒しになったので皆では出来なかったが、柏で祝えた。今年は、中秋と満月が重なった“中秋の名月”を愛でることが出来た。次は8年後だと云う。秋の夜を楽しめた。深夜に近くの“極楽の湯”の露天風呂から南天に皓皓^{こうこう}と光る月が望めた。お月様にウサギが餅をついている姿が見えるか目を凝らしてみたが、月光の輝きが強く兎の姿は見えなかった。

○中国から伝わった兎の話では月のウサギが牡で地上のウサギは雌で、「ウサギは月を見て^{はら}孕む」なんていう言葉もあるそうだが、童謡に“ウサギ、ウサギ何見て跳ねる、15夜お月さん見て跳ねる”とある。「^{はら}孕む」が「跳ねる」に変化したのかもしれない。かぐや姫は実話ではないかと思えて来るような輝く月光に、妖艶を感じた。すっぱ裸で月を見ていた、私は男で良かったのかもしれない？。

○五穀豊饒の祭りには子孫繁栄に絡む話が多い。神話や民話にも下ネタの話が多い。子供の頃に聞いた下ネタの記憶は以外に多いが、最近下ネタの話題は少ない。綺麗事だけの社会には逆に危ういものを感じる。先般“はだかのゲン”の閲覧制限の話題があったが、“2005年からインターネットの性表現をブロックしたスウェーデンの例では、そのブロック後に、かえって強姦犯罪が増えている。”の例もあると云う。自然の営みの基本の所は凝視？まではしないでいいが、しっかり捉えられていなければと思う。

○トラクターで耕起していると掘り起こされた虫を食べに^{せきれい}鶺鴒が来る。尾を上下に振りながら地面を叩くようにする仕草を見て、神話のイザナギとイザナミに男女の交わりを教えたことから、恋教え鳥と呼ばれた鶺鴒の事が思い出される。目ざとくトラクターで耕起していると良く来る。不思議な歩き方をするのを見て、神様も同じことを考えたのである。自然界の営みは子孫繁栄に満ちている。オイヌノフグリの名ではないが、それらの伝承も多い。五穀豊饒の祭儀が子孫繁栄につながるのは必然の話である。過剰の規制も露出も良くない。自然態でありたいものである。

○明るい話題=下ネタでは知性を疑われてしまうが、嫌いではないのでご容赦願いたい。中秋の名月からこんな話にしてしまった。先号で購読を薦めた“「里山資本主義」(角川書店)を読み終えたので、同じ著者の”デフレの正体“を読み始めた。私の農的生活と絡めて考えて見たいと思ったが、乖離もあり、重いものがある。まずは、農的生活の改善が優先課題と諦めている。ただ今は、アベノミックスの副作用や後遺症がミニマムになる事を祈りたい。弱者には辛いものになると思われるからである。高齢者による高齢者のためのコミニティーが作れないものかと今は農作業をしながら夢想しているだけである。

【後記】紅葉が始まります。秋の夜長を美酒で楽しみたいですね。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<中秋の名月>梨、りんご、栗、それに団子をお供えした。19日撮影

発行者 ; K o g u r e 農場・小暮虎雄
住所 ; 笠間市本戸 4 2 0 1 - 1 0
携帯電話 ; 0 9 0 - 9 3 3 3 - 4 1 3 5
メール ; torao-k@nifty.ne.jp
HP ; <http://homepage3.nifty.com/toragigi/>